

第五十一回 貴族院議事速記録第二十二號

第十一 刑事訴訟法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長)

大正十五年三月九日(火曜日)

午前十時三十八分開議

議事日程 第二十二號 大正十五年三月九日

午前十時開議

第一 獸醫師法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第二 民事訴訟費用法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第三 民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第四 商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第五 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第六 人事訴訟手續法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第七 競賣法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第八 民法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第九 破產法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

第十 明治三十二年法律第五十號中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

○議長(公爵徳川家達君) 去ル六日從四位勳三等男爵上村從義君、男爵議員
補闕選舉ニ當選セラレマシタニ付キ、其席次ヲ有地男爵ノ次席ト確定シ、且
ツ部屬ヲ第二部ニ定メマシタ、是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔小林書記官朗讀〕

去ル五日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送
付セリ

民事訴訟法中改正法律案

民事訴訟法中改正法律施行法案

同日日本興業銀行外二銀行ノ對支借款關係債務ノ整理ニ關スル法律案特別
委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 伯爵堀田 正恒君 副委員長 淺田 德則君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

民事訴訟費用法中改正法律案可決報告書

民事訴訟用印紙法中改正法律案修正報告書

商事非訟事件印紙法中改正法律案可決報告書

非訟事件手續法中改正法律案可決報告書

人事訴訟手續法中改正法律案可決報告書

競賣法中改正法律案可決報告書

民法中改正法律案可決報告書

破產法中改正法律案可決報告書

明治三十二年法律第五十號中改正法律案可決報告書

刑事訴訟法中改正法律案可決報告書

請願委員會特別報告第二號

高柳淳之助 君

同日願ニ依リ貴族院議員ヲ免セラル

去ル六日健康保険法中改正法律案外一件特別委員會ニ於テ當選シタル正副
委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 伯爵 柳原 義光君 副委員長

永田 秀次郎君

同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

獸醫師法案修正報告書

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス

○子爵八條隆正君 唯今議長ヨリ、議員高柳淳之助君願ニ依リ貴族院議員ヲ
免ゼラルトノ御報告ニ接シマシタ、就キマシテハ曩ニ議長ニ於テ受理セラレ
マシテ、資格審査委員ニ付セラレマシタル、茨城縣多額納稅者議員互選人青
木才二郎ヨリ同縣選出ノ貴族院議員高柳淳之助君ニ關スル當選無効ノ訴狀ハ
如何ナル取扱ヲ受ケラレルモノデアリマセウカ、此際、念ノ爲ニ議長及資格
審査委員長ニ御意見ヲ伺ヒタイト存ジマス

○議長(公爵徳川家達君) 八條子爵ニ御答ヲ致シマス、本件ハ曩ニ資格審査
委員ニ付セラレテ居リマスカラ、資格審査委員長ノ御意見ヲ求メタイト存ジ
マス

○伯爵寺島誠一郎君 資格審査委員會ニ於キマシテハ……

○議長(公爵徳川家達君) 御登壇ヲ望ミマス

〔伯爵寺島誠一郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵寺島誠一郎君 資格審査委員會ニ於キマシテハ、此本問題ニ關シマシ
テ、其性質ノ最モ重大デアリマスコトニ鑑ミマシテ、極メテ慎重ニ唯今審議
シテ居リマス、而シテ八條子爵ヨリノ御尋ニ對シマシテ、其經過ノ一端ヲ申
上ゲヤウト存ズルノデアリマス、高柳淳之助氏ノ辭表御許可ニナリマシタル
果ト致シマシテ、八條子爵ノ述ベラレマシタ茨城縣多額納稅者議員選舉互選
論ト、消滅スルモノデハナイ、當事者ノ辭表御許可ニ依ツテ當然ノ結果トシ
テ消滅スベキモノデハナイ、依然トシテ其訴訟ハ繼續スベキモノデアル、此兩
論ニ分レテ居ルト云フノガ實狀デゴザイマス、而シテ委員會ノ大體ノ意向ハ

消滅論ニナツテ居ルノデアリマス、併ナガラ其事柄ノ、先刻モ申上グタ通リニ、
最モ重大デアリマスコトニ鑑ミテ、院議ヲ以テ此繼續スベキヤ否ヤノ點ニ付
テ御決定アラムコトヲ希望シテ居ルモノデアルト云フコトヲ申上ゲテ置キマ
ス、報告ハ是ダケデゴザイマス、尙ホ此兩論者即チ繼續スベキモノトスル論者
ト、繼續スベカラズトナサル論者トノ代表トシテ、松本博士ト花井博士ハ此
審査委員會ニ席ヲ有セラル、御方デアリマシテ、是モ御適任ト存ジマスルカ
ラ、此兩博士ヲ煩ハシテ兩論ノ概綱ヲ茲ニ申上グルコトニシタイト存ジマス

〔花井卓藏君演壇ニ登ル〕

○花井卓藏君 唯今委員長ヨリ御報告ニナリマシテ問題ニ關シマシテ、其補
充ノ意味ニ於キマシテ、爭訟ハ消滅スルト云フ委員會ノ幾部ノ意見ヲ代表シ
テ陳述イタシマス、第一ニ於キマシテ、貴族院ガ審議判決スル事件ハ、貴族
院令第九條ニアリマスル通り「貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟
ヲ判決ス」其議員即チ貴族院議員ノ資格及選舉ニ限ラルベキモノノデアル、而シテ更ニ争訟判決規則第一條ヲ見マスルト、「當選議員ヲ被告ト
スヘシ」斯ノ如クニ規定セラレテアリマス、又十三條デアリマス、是ハ出訴
期限ニ關スル規定デゴザイマスガ、参考ノ料トハ相成ルノデアリマス、「貴族
院令第九條ノ規定ニ依リ」云々、「勅任セラレタル議員ヲ被告ト爲ス場合ニ於
テハ」云々、斯ウアリマス、「勅任セラレタル議員ヲ被告ト爲ス場合ニ於テハ」
云々ト斯様ニ書イテアリマス、「當選議員」ノ文字、又ハ「勅任セラレタル議
員」ノ文字、是ハ現ニ議員タル其人ヲ指サスベキモノデアルト云フコトハ論
ヲ俟タヌト存ジマス、ソレ故ニ辭職ヲ聽許セラレタ、今ヤ當選議員ニアラズ、
又勅選セラレタル議員ニアラズ、死亡シタル場合ニ於テモ同様デアル、除名
セラレタル場合ニ於テモ同様デアルト考ヘルノデアリマス、議員ヲ被告トス
ベキ貴族院令並ニ規則デゴザイマスル以上ハ、議員ニアラザル者ノ被告トナ
ルベキ理由ハナイノデアル、故ニ本件ノ如ク既ニ貴族院議員タルコトノ辭職
ノ御聽許ヲ得タル者ニ對シマシテハ、其争訟ハ當然ニ消滅スルモノデアル、
辭職御聽許ノ瞬間ニ於テ當然ニ消滅スルモノデアル、今ヤ貴族院議員ニアラ
ズデアル、故ニ院令第九條ニ所謂貴族院ハ其議員ト云フモノニ關ル争訟ニア
ラザレバ判断スルノ權能ハナイ、又争訟判決規則第一條ニアル如ク當選議員
ヲ被告トスベキモノナルガ故ニ、議席ヲ失ツテ……職ヲ辭シテ議席ヲ失ツテ、
議員ニアラザル以上ハ、其者ニ對スル争訟ハ繼續スベキモノデナイト信ズル

ノデアリマス、互選規則第三十九條ニハ「議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命スヘシ」ト申ス規定ガアリマス、高柳氏ガ辭職ノ御聽許ヲ得タノデアリマス、即チ茨城縣ニ於ケル多額納稅議員一名ノ闕員ヲ生ジテ居ルノデアリマス、貴族院議長ヨリ直チニ上奏ヲセラレヌケレバナラヌノデアリマス、而シテ上奏ヲセラレルニ付テ、此間ニ此上奏ヲナス手續ヲ、問題ノ爲ニ猶豫スベキ途ハ、法ハ立テテ居ナイノデアリマス、斯ノ如クニシテ補闕ニ、イヤ……辭職ニ依リテ闕員ヲ生ズルマデニ立到ル、之ガ爲ニ上奏ヲセラル場合ニマデ立到^ツテ居ルノデアリマスカラシテ、此議場ニ貴族院議員トシテノ當選議員若クハ勅任セラレタル議員トシテノ高柳氏ノ居ナイト云フコトハ、明カデアルノデアル、此者ヲ被告トスル爭訟ノ審判ヲナシ得ベカラザルコトハ、單純ナル訴訟法上ノ通念トシテモ認メラレルベキモノデアルト私ハ信ジマス、第二ニ於テ、斯ノ如ク或ル資格ヲ有スル人ガ被告トナルベキ規定デアル以上ハ、貴族院議員タル資格ヲ有スル人ガ被告トナルベキ規定デアル以上ハ、其人存セズ、其訴消滅ス、自然ノ理デアリマス、此事件ハ……間違ヒマシタ此訴訟ハ人ガ被告取ラレテ居ルノデアル、問題ガ被告取ラレテ居ルノデハナイノデアリマス、問題ヲ被告トスルト云フ訴訟ハ、是ハ訴訟法ノ理論ノ上ニ於テ存在スベキモノデハナイノデアリマス、當事者ガ必ズ有ルベキ筋ノモノガ即チ訴訟デアル、當事者ハ常ニ必ズ訴訟ノ主體ヲナスベキ者デアリマス、當事者ハ訴訟ニ於ケル所謂主人公デアリマシテ、請求ノ原因タル實體的權利關係ノ主體タルベキモノデアリマス、既ニ有效無効ヲ争フ議員ノ資格ト云フモノハ、其人、職ヲ辭シテ今存セヌノデアリマス、争ハムト欲スル資格問題、即チ實體的權利關係ト云フモノハ、消滅イタシテ居ルノデアリマス、唯問題ガ單リ殘ルノデアル、然レドモ問題ハ當事者タルコトヲ得ザルモノデゴザイマスカラ、若シ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則デハ問題ヲ當事者トシナイト云フ事柄ニ迎ヘ得ト云フモノハ、消滅イタシテ居ルノデアリマス、唯問題ガ單リ殘ルノデアル、然レドモ問題ハ當事者タルコトヲ得ザルモノデゴザイマスカラ、若シ貴族院議員ニアラズ、貴族院議員ニアラザレバ、事件ノ消滅セルコト一點ノ疑アルベカラズト確信ヲ致スノデアリマス、第三ニ於キマシテ、若シ此訴訟ガ繼續スルト致シマシタナラバ、貴族院議員ニアラズ、貴族院議員ニアラザレバ被告ト爲スコトヲ得ズ、此觀念ヨリ致シマシテ、彼ノ今日ノ立場ハ當事者トシテノ適格者デハナイノデアル、

正當ナル當事者タルニハ訴訟實行ノ權利ヲ有スルコトヲ必要トスルノデアリマス、訴訟ノ實行權ト申スノハ、自己ノ資格、自己ノ名ニ於テ、原告ハ完全ニ攻撃權利ヲ行ヒ、被告ハ完全ニ防禦ノ權利ヲ行使スルコトヲ申スノデアリマス、此故ニ爭訟判決規則第四條ニ於テ、完全ニ被告ヲシテ防禦權ヲ行ハシムベク、訴狀ハ必ズ之ヲ被告ニ送達ス、而シテ答辯書ヲ差出サシムル、尙ホ第七條ニ於キマシテ、「資格審査委員ハ答辯書ヲ受領シタル後ニ非サレハ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得ス」、凡ソ訴ハ双方ノ主張ヲ明カニシ、片言獄ヲ誤ルコトナキヲ期セネバナラヌト云フコトノ周到ナル注意ヲ要求シ、而シテ被告ノ有スル防禦權ヲ飽ク迄モ尊重スルコトニ定メテ居リマス、尤モ期限内ニ答辯書ヲ差出サザル場合ニ於テ、「期限後二日ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス」ト云フ規定ガゴザイマスガ、是ハ完全ニ防禦權ヲ行ハシメムト欲シタルニモ拘ラズ、其權利ヲ怠リ或ハ之ヲ棄棄スルト云フ場合ヲ定メタルニ過ギナインデアリマシテ、法ノ精神ハドコロ迄モ爭訟實行ノ權利、原告ニ於テ攻撃ノ權利ヲ完全ニ行使フト同様ニ、被告ヲシテ飽ク迄モ防禦ノ權利ヲ行ハシムルコトヲ欲シテ居ルト云フコトハ明カデアリマス、斯ノ如キ次第ゴザイマスルカラ、高柳氏ヲ被告トシテ判決ヲナサムトスルニ當リ、其審理ヲナスニ於テ、今此席ニ在ラザル人ナルガ故ニ、議院法並ニ貴族院規則ノ定メテ居リマスル、即チ自己ノ爭訟問題ニ關シテハ幾度モ發言ヲシテ其主張ヲ全ウシ得ル條文ヲモ、完全ニ行使スルコトノ出來ナイコトニ相成ルノデアリマス、是モ亦答辯書ニ對スル規定ト併セ考究スベキ必要ガアラウト存ジテ居リマス、第四ト致シマシテ、判決文ハ如何様ニ書クベキモノデアラウカ、即チ今議員ニ非ザルモノニ貴族院ハ判決ヲ言渡スノデアリマスカラシテ、何レニ致シマシテモ、曾ルデアラウカ、曾テ貴族院議員タリシ高柳淳之助ノ當選ハ無効トス、或ハ又無効ニアラズトス、斯ウ云フ風ニ書カネバナラヌノデアル、現ニ議員ニ非ザルモニ貴族院ハ判決ヲ言渡スニ當リ、如何様ナ判決主文ガ作リ得ラレルモノヲ被告トシ、即チ貴族院外ノ人ニ對シテ、其當選ノ效力ノ有無ヲ判斷シテ議員タリシトカ、或ハ又、辭職前ノ議員高柳淳之助ニ對シ、トカ云フ風ニ書カネバ相成ラヌ譯ニナルノデアリマス、然レドモ貴族院ハ、貴族院議員ニ非ザルモノヲ被告トシ、即チ貴族院外ノ人ニ對シテ、其當選ノ效力ノ有無ヲ判斷シテ議員タリシトカ、或ハ又、辭職前ノ議員高柳淳之助ニ對シ、トカ云フ風ニ書カネバ相成ラヌ譯ニナルノデアリマスカラシテ、何レニ致シマシテモ、曾得ベキ權能アリヤ否ヤ、曾テ有リシ資格ノ當否ヲ審査スルノ權能アリヤ否ヤ、憲法、貴族院令並ニ貴族院ノ有ラユル規則、一モ之ヲ認メテ居ル條文ハ無イノデアリマス、第五ニ於キマシテ、後ニ松本博士説明セラレル問題ガ起ルノデ

アリマス、私モ其説ノ傾聽スベキモノデアルト云フコトハ認メルノデアリマス、又或點マデ憂慮セラルル點ハ私モ憂慮スルノデアリマス、併ナガラ法令

上ニ之ヲ認メテ居ナイノデアル、衆議院議員選舉法ニ於テハ稍^シ認メタルガ如キ規定ガアルノデアル、併ナガラ貴族院ノ有ラユル法令ハ之ヲ認メテ居ナイノデアル、此問題ヲ解決スルニ當^ツテ、之ヲ衆議院議員選舉法ニ對照スルト云フコトヲ以テ、貴族院ノ法令ニ無キモノヲ補フト云フ譯ニハ行クマイト思フ、衆議員ノ先例ハ、第一ノ議會ニ於キマシテ、熊本縣選出ノ代議士松山守善ト云フ人ニ對シテ、當選爭訟中ハ辭職ヲ許サヌト云フ決議ニナツタノ例ガアリマス、是ハ明治二十三年ノ議會、第二十五回ノ議會ニ於キマシテハ、愛媛縣選出ノ田坂初太郎ト云ヘル人ニ對シマシテ、資格審査中辭職ヲ聽許シ、辭職ヲ聽許スルト同時ニ、其資格審査ハ消滅ニ歸シタト云フ事例モアルノデアリマス、ニ通リアルノデアリマス、消滅論ハ近イノデアリマス、辭職ヲ許サヌト云フ例ハ、第一回ノ帝國議會ニ於テ存シテ居^タ譯デアルノデアリマス、私ハ斯ノ如キ理由ヲ以チマシテ、此爭訟ハ當然消滅スルモノデアル、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、此場合ニ於テ尙ホ一言ヲ加ヘテ置キタイノデアリマスガ、死亡ノ場合ニ於テモ、除名ノ場合ニ於テモ、辭職ノ場合ニ於テモ、同ジコトデアラウト信ジテ居ルノデアリマス、死亡ノ場合ハ即チ人格ノ消滅デアルカラシテ論ハ無イノデアリマス、從テ訴訟上ノ人格モ併セテ失フノデアリマス、除名ノ場合竝ニ辭職ノ場合ニ於テハ、生理的ニ人格ガ消滅イタシテ居リマセヌ、併ナガラ貴族院ニ於テ審判ヲナシ得ル訴訟ノ上ノ人格ハ消滅シテ居ルノデアル、無クナツテ居ルノデアル、此意義ニ於キマシテ、何等異ナル所ハナイト信ジテ居ルノデアリマス、委員長ノ報告ニ對スル補充ト致シマスナラバ、登壇ヲ願ヒタイ

○富谷鉢太郎君 長クゴザイマセヌ、纏メマスト一二分^デ終ルノデアリマス、
○議長(公爵德川家達君) 富谷君
○富谷鉢太郎君 私モ審査委員ノ一人デ……
○議長(公爵德川家達君) 富谷君ノ御發言中デゴザイマスガ、大分長クナリマスナラバ、登壇ヲ願ヒタイ

〔富谷鉢太郎君發言ノ許可ヲ求ム〕

サウ云フコトデ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ御大聲ニ願ヒタイ

○富谷鉢太郎君 ハイ承知イタシマシタ、唯今花井博士ノ御説明ニナリマシタ、争ヒニ係^ツテ居ル、即チ資格審査委員ノ調査ニナツテ居ル、唯今御報告ノ被^レ告高柳氏ニ關スル争訟ハ、既ニ消滅シタモノト見ルベキモノデアルヤ否ヤト云フ問題ニ付テハ、私ハ花井君ト全然同説デアリマシテ、理由モ加フベキモノハ殆ドアリマセス、全ク同説デアリマシテ、此争訟ハ自然消滅シタモノデアルト云フノガ最モ正シイ議論デアラウト思ヒマス、是ダケヲ述べマス

○議長(公爵德川家達君) 松本烝治君ノ登壇ヲ望ミマス

〔松本烝治君演壇ニ登ル〕

○松本烝治君 私ハ委員長ノ御話ノ補充ト致シマシテ、此争訟ガ消滅シナイ、即チ花井君ノ御論ニ對スル反對論ヲ懷イテ居リマスル數名ノ者ニ代リマシテ、極メテ出來得ル限り簡単ニ、其考ノ綱領ヲ述べテ見タイト思ヒマス、此問題ヲ解^クイタシマスル爲ニ第一ニ必要ナルモノハ、所謂コノ貴族院議員ノ選舉ニ關ル争訟ト云フモノノ性質ヲ考ヘナケレバナルマイト思ヒマス、此選舉ニ關スル争訟ナルモノハ何ヲ目的トスルモノデアルカト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、デ、此争訟ノ目的ハ、或ル當選議員ノ當選ガ無效デアツカ、無效デナカツカヲ決定スルニ在ルノデアリマス、其議員ヲシテ將來ニ向^ツテ議席ヲ失ハシムルヤ否ヤト云フコトハ問題デハナイノデアリマス、當選ガ有效デアツカ無效デアツカト云フコトヲ決メルノデアリマス、若シ當選ガ無効デアツタト云フコトニナリマシタナラバ、其結果ハ當選者トシテ勅任セラレタト云フ、勅任ノ前提要件ガ無クナリマスルカラ、其當選シタト云フ者ハ、遡^ツテ初ヨリ一日モ議員デナカツタト云フコトニナリマス、選舉ニ關スル争訟ハ、斯ノ如キコトノ判決ヲナス爲ニ出來テ居ルモノデアリマス、尙ホ多少詳シク其事ヲ申シマスル爲ニ、辭任ノ場合ト當選無効ノ判決ノアツタ場合トノ差異ヲ先づ述べテ見タイト思ヒマス、先づ被告ニ付テ申シマスレバ、被告ガ辭任ヲ致シタト致シマシテ、争訟ハソレデ終^ツタト云フコトニナリマシタナラバ、ドウナルカト申シマスルト、此辭任ヲシタ者ハ正當ニ勅任サレ、而シテ正當ニ辭任ヲシタノデアル、之ニ反シマシテ、若シモ矢張リ争訟ガ續イテ居ルト致シマシテ、而シテ當選無効ト云フコトニナツタト假定ヲ致シマシタナラバ、ドウナルカト申シマスルト、初ヨリ其當選ガ無効デアル、其所謂

議員ト稱シテ居タ者ハ、未ダ曾テ一日モ本院ノ議員デナカッタ云フコトニナルノデアリマス、デ、此二ツノ間ノ差異ハ非常ニ大キナ違ヒガアルト云フコトヲ、十分ニ御考告ノ権利利益ノ上ニ於テ非常ニ大キナ違ヒガアルト云フコトヲ、十分ニ御考ヘラ、願ヒタイノデアリマス、デ、更ニ翻ツテ原告ノ側カラ觀察イタシマスト、ドウナルカ、若シモ辭任ヲサレタ、其結果争訟ガ續カナイ、辭任デ終ツタ致シマスト、補闕選舉ニナルノデアリマス、併ナガラ若モ當選無効ト云フコトニナリマシタナラバ、次點者ハ法定ノ要件ヲ備フル限りハ直チニ當選人ニナルノデアリマス、補闕選舉ヲ俟タズシテ、當然當選人トナリ、而シテ勅任セラレテ議員トナリ得ルノデアリマス、此二ツノ間ノ違ヒモ亦非常ニ大キナモノト云ハナケレバナラヌノデアリマス、即チ辭任ヲセズシテ、假ニ選舉争訟ノ目的トナツテ居ル、被告トナツテ居ル者ガ辭任ヲセズシテ進ンデ行ツタト云フ場合ト、辭任ヲシテ其辭任ニ依ツテ争訟ハ終ツテシマフト云フ反對論ヲ取ツタ其場合トノ違ヒヲ考ヘテ見マスルト、非常ニ大キナ違ヒニナル、唯今述べタ通リノ違ヒガ、原告側及被告側雙方ニ對シテ有ルノデアリマス、若モ辭任ニ依ツテ其爭訟が終ルト云フコトノ反對論ヲ取リマシタナラバ、其結果ハ、被告ハ自己ノ任意ノ辭任ト云フコトニナリマシテ、此大キナ違ヒヲドッヂニデモ出来ルト云フコトニナルノデアリマス、辭任ヲシナケレバ自分ハ一遍モ貴族院議員ニナラナイ、又原告ハ當然當選人ニハナラヌ、補闕選舉ト云フコトニナル、辭任ヲシテシマヘバ、争訟ガ終ツテシマフ、其結果ハ即チ本院ノ議員ニナツタモノデアル、法律上有效ニナツテ之ヲ辭シタモノデアルト云フコトニナリマシテ、原告ハ補闕選舉ヲ俟ツニアラザレバ當選人ニハナラナイ、然ラバ補闕選舉ニ於テ何人ガ當選スルカ分ラナイノデアリマス、或ハ或ル場合ニ於テハ、被告自體ガ又補闕選舉ニ出ルカモ知レナイノデアリマス、デ、斯ノ如キ重大ナル違ヒヲ、被告ノ自由ノ意思ニ依ツテ左右ガ出來ルト云フコトハ、非常ナル不公正極マルコトデアリマス、斯ノ如キ不公正ナルコトヲ法律ガ要求シテ居ル、明文ヲ以テ要求シテ居ルノナラバ、或ハ致シ方ガナイカモ知レマセヌ、併ナガラ我ミノ見ル所デハ、毫モリマシテハ、此正義公平ヲ保持スルコトヲ以テ、其大主眼、根本義トシナケ

レバナラヌノデアリマス、若モ此法文上、如何ニシテモ左様ナル解釋ガ出來ナイト云フコトニナリマシタナラバ、ドウスルカト云フコトニ付キマシテハ、或ハ進歩シテ居ル此頃ノ學者ハ、法文ハ曲ゲテモ尙ホ正義公平ノ要求スル所ニハ從ハナケレバナラヌトサヘモ言ウテ居リマス、私ハ斯ノ如キ説ヲ必シモウナルカ、此申シマセヌ、併ナガラ此際ハ何等法文ノ上ニ於テ、辭任ヲシタナラバ形式論理ヲ以テ、辭任ヲシタ者ハ議員デナイ、議員デナイ者ニ對シテハ判決ノ仕様ガ無イト云フヤウナ形式ノ議論ヲ以テ、此不當ナル結果ヲ招クヤウナ解説ヲ取ルト云フコトハ、ドウシテモ私ノ贊成出來ナイ所デアリマス、衆議院ノコトニ付キマシテ花井君モ一言サレマシタ、或ハ又他日討論ノ際、復辯ズルコトガアルカモ知レマセヌガ、極ク簡單ニ衆議院ノ關係ヲ述べテ見タイノデアリマス、明治二十二年ノ衆議院議員選舉法ニ於キマシテハ、當選訴訟ニ關シマシテ第八十二條ノ規定ガアリマシテ、「審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ」トアツタノデアリマス、私ノ解スル所ニ依リマスレバ、此規定ハ衆議院解散ノ場合ニ限ツテ特ニ當選訴訟ヲ棄却スルコトヲ定メテ居ル、是ハ衆議院ガ解散ニナリマシタナラバ、當然、總テノ議員ノ議席ヲ失ツテシマフコトハ當然デアリマス、若モ花井君ノヤウナ議論ヲ取リマシタナラバ、此際コンナ規定ヲ置ク必要ハ一ツモ無イ、解散ノ結果、訴訟ガ無クナルト云フコトハ當然デアルト云ハナケレバナラヌノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、斯ノ如キ規定ノアル所以ハ、解散ノ場合ハ一齊ニ議員ガ無クナルガ、或者ダケノ、當選訴訟ニ繫ツタ者ダケガ殘ルト云フコトハオカシイト云フ觀念カラ、此規定ガ置カレテ居ルモノト私ハ解スルノデアリマス、從テ辭任ヲシタ場合ニハ、此反面カラ申シテ、當選訴訟ハ繼續シテ居ルノデアル、棄却スルコトハ出來ナイモノデアル、辭任ヲシテモ何デモ繼續シテ居ルノデアルト云フコトニ解サナケレバナラヌコトハ、明瞭デアラウト思フノデアリマス、更ニ衆議院議員選舉法ノ大正八年ノ改正以後ニ於キマシテハ、明文ヲ以チマシテ、即チ大正八年ノ改正ノ第八十二條、ソレカラ新選舉法ノ第八十三條ニ於キマシテハ、當選人ガ死亡シタル場合ニハ、檢事ヲ以テ被告ソレダケノコトヲ書イテ居リマス、其趣旨ハ、死亡シタトキニハ檢事が被告ニナルト云フノデアリマスカラ、死亡セズ單ニ辭職シタトキニハ、當然辭任

ニ依ツテ訴訟ハ終ラナイ、矢張リ其議員タル者ガ辭任シテモ何デモ訴訟ハ續ケ
テ行クト云フコトヲ前提トシテ見ナケレバ、此解釋ハ付カナインデアリマス、
私ノ解スル所ニ依リマスレバ、衆議院ノ方ハ少クトモ當選訴訟ハ當選人ノ議
員ヲ辭シタルト否トヲ問ハズ續イテ行カナケレバナラヌコトハ、明瞭デアル
ト云フモノノ性質ガサウデナケレバナラヌ、衆議院デモ其性質ニ付テ……基
ト思フノデアリマスガ、此點ハ事他院ノコトニ關スルノデアリマシテ、之ヲ
深ク論ズル必要ハ無イト思ヒマス、唯私ガ之ヲ舉グマスル所以ハ、當選訴訟
ノト解スルノハ誤リデアラウト云フコトヲ申シタイ爲ニ此事ヲ申スノデアリ
マス、唯今花井君カラ反對ノ御議論ガアリマシタガ、今日ハ此委員長ノ御説
明ノ一部ヲ補充スル趣意デアリマシテ、敢テ討論ヲ茲デヤル積リデハナイト
思ヒマス故ニ、花井君ノ御議論ニ對シテ一々討論ヲスルコトハ私ハ不穩當デ
アラウカト思ヒマス、若シ左様ニ致シマスルト、又花井君ガ立タレテ討論ニ
ナル、討論ヲヤルノデナニ、補充スル爲ニ説明スルノデアル、併ナガラ花井
君ノ言ハレタコトハ、直チニ以テ私ノ説ヲ殺サウト云フコトナンデアリマス、
之ニ對シテ討論ヲ致ス趣意デハアリマセヌガ、一言イタサナケレバ、我ミノ
説ノ主張ニハ矢張リナラヌト思ヒマスカラ、極メテ簡単ニ、他ノ事ハ他日ノ
討論ノ時ニ讓リマシテ、極メテ簡単ニ、花井君ノ御説ニ對シテ一言ヅツヲ御許
シヲ願ヒタイノデアリマス、花井君ノ第一點ハ、院令ノ九條ハ、貴族院ハ其
議員ノ資格及選舉ニ關スル爭訟ヲ判決ス、其他判決規則ノ一條、十三條等ニ、
ノ讀ム所ニ依リマスレバ、其議員ノ選舉ニ關ル爭訟ハ、貴族院議員ノ選舉ニ
關スル爭訟ヲ判決スルノデアリマス、此議員ガ現ニ議員デアリヤ否ト云フコ
トハ關係ハナイ、其議員ノ選舉ニ關スル爭訟ハ、辭任ヲシテモ矢張リ其人ノ
選舉ト云フモノハ、貴族院議員ノ選舉デアツテ、其選舉ニ關ルコトノ判決ヲス
ル權限ヲ是デ持ツテ居ルノデアリマス、辭任ヲシタ場合ニ斯ウ云フコトノ範圍
外デアルト云フヤウナコトハ、私ノ了解シナイ所デアルノデアリマス、極メ
テ簡單ニ、駁論デハアリマセヌカラ述ベテ置ク譯デアリマス、第二ハ被告ガ
無イ、被告ハ貴族院議員デナケレバナラヌ、既ニ貴族院議員デナイ者ハ被告
デハナイ、被告ハ有リ得ナイト云フ御話デアリマシタガ、是ハ見解ノ相違デ

アルガ、我々ハ、被告ノ貴族院議員デナケレバナラヌト云フコトハ何處ニモ書イテナイ、勿論争訟ヲ起ス際ハ當然議員ニ對シテ起スノデアル、當然議員ニ勅任サレナケレバ争訟ヲ起スコトハ出來ナイ、併ナガラ其起シタ争訟ノ被告ハ、如何ナル場合デモ徹底シテ仕舞マデ貴族院議員デナケレバナラヌト云コトニナル、貴族院議員ト云フ資格ヲ相手方トシテ争訟ヲスル、左様ナコトハコトハ、何處ニモ書イテナイ、左様ナコトハ一ツモ見エヌノデアリマス、花井君ノ御論ノヤウナコトニナルト、被告ハ人デナクシテ資格デアルト云フ居ル以上、如何ナル所ニ居ラレテモ、又或ハ除名ニナツテ居ラテモ、或ハ辭職ヲサレテ居ラテモ、是ハ被告ガ居ルノデアル、被告ナシト云フ御議論ハ私ニハ了解出来ナイノデアリマス、又第三ニ此答辯書云々ト云フ御話ガアリマシタガ、被告ハ議員デナクテモ答辯書ハ出セルノデアリマス、何モ議員デナケレバ答辯書ハ出セヌノデモ何デモナイノデアリマス、又發言ノ權云々ト云フクトガ御話ガアリマシタガ、是ハ成程議員ヲ辭シタナラバ發言ハ出來マスマイ、併ナガラ是ハ發言ノ權ヲ自ラ抛棄シタモノデアル、議員ヲ辭シテ而シテ自ラ其權ヲ抛棄シタモノデアル、ソレハ致シ方ナイ、議員ヲ辭セズト雖モ、發言ノ權ヲ抛棄シテ自ラ行使シナイ場合ハソレデ差支ナイ、是等ノ如キハ理由ニナラヌト思ヒマス、又第四ニ判決文ノ様式如何、院外ノ者ニ判決スル權利ニ對シテ判決サレルノデアル、其被告ガ議員デナクナツタカライカヌト云フ理ハ無カラウト云フ御話デアリマシタガ、此選舉争訟ニ於キマシテ、原告ハ常ニ院外ノ者デアリマス、原告ハ當院ノ議員デハナイノデアリマス、原告被告窟ハ、何等私ハ無イト思フ、尙ホ判決文ノ形式如何ト云フヤウナコトハ、抑枝葉ノ事デ、此高柳淳之助ノ當選ヲ無効トストカ、或ハ無効ニアラズトスト云フコトデ宜シイダラウト思ヒマス、其他マダ御述ベニナツタコトモアリマスルガ、是ハ先程御断リシマシタヤウニ討論デハナイ、要スルニ私ガ花井君ノ御説ヲ擧ゲテ、而シテ之ニ付テ簡単ニ一言ヲシタ理由ハ何デアルカ、要スルニ是等ノ御説ハ、條文ノ辭句トカ、或ハ一種ノ假定的ノ前提ニ依ツテ出來タ所ノ、即チ議員ニアラザレバ此争訟ノ被告ニハナラヌト云フコトヲ明カニシタノデアル、デ、所ノ論理、斯ノ如キモノニ過ギナイト云フコトヲ明カニシタノデアル、デ、スルニ如ク此條文ノ小サイ辭句ノ問題、或ハ形式論理、ソレモ其前提ヲ悉ニ作ツヘテ、ソレニ依ツテ出來タ所ノ形式論理、循環論法デアリマス、斯ノ如キ

形式論理、或ハ辭句ヲ強ヒテ捉ヘテ、而シテ此根本義ニ反スル、不公正極マ
ル結果ヲ生ズルコトニナルト云フヤウナコトハ、私ハ法律解釋ノ途ヲ誤ッテ居
唯舉ゲタダケデアリマスカラ、敢テ討論ヲシタ譯デハナイノデアリマス、討
論ハ他日、花井君モ御討論ガアルカモ知レマセヌガ、私モ或ハ之ニ御答ヲス
ルコトガアラウト思ヒマスガ、全ク委員長ノ御趣旨ニ基キマシテ、其演述ヲ
補充シタモノト御考ヘヲ願ヒタイノデアリマス

〔志水小一郎君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 先刻八條子爵カラ、議長竝ニ資格審査委員長ノ意
見ヲ御求メニ相成リマシタガ、前キニ議長ガ申述ベマシタ如ク、本件ハ資格
審査委員ニ付セラレテ居リマシタカラ、資格審査委員長ノ御陳述ヲ求タマシ
タ次第デゴザイマシテ、本件ニ對シテ、議長ノ意見ヲ茲デ申述ベルコトハ致
シマセヌ積リデゴザイマス、而シテ本件ハ本會議ニ於テ決スルコトヲ妥當ト
議長ハ認メマス、問題ハ、資格審査委員會ニ於テ審査中ナル茨城縣多額納稅
者議員高柳淳之助君ニ對スル訴狀ハ、其效力ガ消滅シタルモノト認ムルヤ否
ヤト云フコトニ議長ハ考ヘマス次第デゴザイマス、之ニ付テ甲乙兩説ガ現ハ
レマシタカラ、贊否ノ御討論ヲ願ヒタイト考ヘマス、……志水小一郎君ハ、
今發言ヲ求メラレタ御様子デゴザイマスガ、質疑デゴザイマスカ、ドウ云フ
コトデスカ

○志水小一郎君 本員ハ松本委員ニ對シテ簡單ニ御尋ネスル積リデゴザイマ
ス

○議長(公爵德川家達君) 登壇ヲ願ヒマス

○志水小一郎君 極メテ簡單デゴザイマスカラ……：

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ大キナ御聲デ願ヒタイ

○志水小一郎君 松本君ハ此當選爭訟ト云フモノハ、當選ノ當否ヲ決スルモ
ノデアル、斯ウ云フ御意見デアリマシタ、從テ被告ノ一身上ドウ云フコトガ
生ジシモ、爭訟其モノガ消滅スル譯デハナイ、斯ウ云フ御趣意デアリマシタ、
ソレデ本員ノ伺ヒタイノハ、被告タル人ガ死亡シタ場合デモ亦然リト云フ御
意見デアリマセウカ、其場合ニハ(聽取シ難シ)云々ト云フヤウナ御議論モア
リマシタガ、サウ云フコトハ何ニモ現行規定ニハ……貴族院關係ノコトニハ
無イノデアリマス、本員ノ特ニ伺ヒタイノハ、委員ノ必要ト認ムル折ニハ、

「被告ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ」云々ト云フ規定ガ、貴族院
議員資格及選舉爭訟判決規則第四條ニアリマス、又「委員ハ必要ト認ムルト
キハ原告及被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得」ト云
フ規定ガアルノデアリマス、之ニ付テ伺ヒタイノハ、是ハ被告ガ貴族院議員
タル資格ハ持ツテ居ナイ狀態ニ居ツテモ、答辯書ナリヲ差出サ
シムルコトハ、何等差支ナイト云フ、斯ウ云フ御意見デアリマシタガ、若シ
被告ガ差出サナカツタキニハ、ドウナルデアリマセウカト云フコトヲ伺ヒタ
イ、此規定ガアル爲ニ、貴族院議員ト云フ資格ハ無クナツテモ、矢張リ委員ノ
請求ニ依ツテハ、答辯書、再答辯書ヲ出サナクチヤナラヌト云フコトニナルノ
デアリマセウカ、若シ被告タリシ人ガ、最早ヤ自分ガ貴族院議員タル資格ハ
無クナツタ爲ニ、コンナモノハ出サナイ、出ス必要ガ無イト云ツテ出サナカツタ
トキニハ、ドウナリマセウカ、裁判ヲスルヤウナ狀態ニナルノデアリマセウ
カ、ドウカ、ソレガ爲ニ當選ノ當否ヲ判ズルニ由ナシト云フヤウナコトニハ
ナラヌノデアリマセウカ、ソレヲ一言伺ヒタイ

○松本烝治君 唯今ノ御質問ニ對シマシテ、簡單ニ御答ヘ申上ゲマス、第一
ノ御問ハ、死亡ノ場合ハドウナルト云フ御話デアリマシタ、死亡ノ場合ニ
尙ホ訴訟ガ繼續スルト云フコトハ、衆議院議員選舉法ニ、其場合ハ「檢事ヲ
被告トス」ト云フ結果カラ出テ來ルノデアリマスガ、我々ノ此爭訟判決規則
其他ニ於キマシテハ、左様ナ規定ハ無イノデアリマスカラ、死亡イタシマシ
タ以上ハ、當然被告ハ無クナルノデアリマス、其場合ニ於キマシテ民事訴訟
法等ノ如ク、相續人ノ受繼トカ何トカ云フコトヲ認ムベキ性質デナイコトハ、
言フマデモナイコトデアリマス、故ニ若シ被告ガ死亡イタシマシタキハ、
ハ全然違フノデアリマス、解職ヲ致シマシタノハ唯貴族院議員デ、(聽取シ難
シ)其資格ガ一時無イヤウニ見エテ居ルダケノコトデアリマシテ、死ンデシ
マツテ人格ガ無クナツタト云フコトトハ全然違フノデアリマス、人格アル以上
ハ、被告タルニ一ツモ差支ナイト、左様ニ解スル次第デアリマス、尙ホ立法
論トシテ死亡ノ場合、衆議院議員選舉法ノヤウニスルノガ宜シト云フコト
ハ別問題デアリマス、選舉爭訟中ニ死亡スルガ如キハ極メテ異例、稀有、絶
無ト云ツテモ宜カラウ、而シテ又短イ選舉爭訟、我々ノ選舉爭訟ハ、裁判所ニ
於ケル衆議院議員選舉爭訟ト異ナリマシテ、比較的短イ期間ニ決マツテシマ

フ、其間ニ死亡スルト云フコトハ極メテ稀デアリマス、而シテ又假ニ其死亡ヲ生ジタト云フトキニハ、ソレハ當然其爭訟ハ消滅シタモノト認メマシテ、弊害ハ何等無イノデアリマス、ドウモ當選訴訟ニ負ケサウデアル、選舉爭訟ニ負ケサウダト云フコトデ、死亡スルト云フ人モ無イダラウト思フ、其自由意思ニ依ツテ、自分及相手方ノ権利義務ヲ變更スルト云フヤウナコトハナイ、故ニ死亡ノ場合ハ消滅スルトシテ差支ナイト思ヒマスガ、辭職ノ場合ハ然ラズト云フコトヲ言ヒタイノデアリマス、第二ノ御問ハ、答辯書ヲ出サヌト云フヤウナトキニハドウスルト云フ御話デアリマシタガ、其場合ハ第七條ニ「資格審査委員ハ答辯書ヲ受領シタル後ニ非サレハ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得ス但シ被告期限内ニ答辯書ヲ差出サナル場合ニ於テ期限後二日ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス」トアッテ、答辯書ヲ出スト否トハ被告ノ権利デアル、若シ被告ガ之ヲ出サヌト云フトキハ、假令當院ノ議員タル被告デアリマシテモ、何デモカンデモ出セト云フコトノ強制ハ何等スル途ハナイノデアリマス、故ニ議員タルト否トヲ問ハズ、答辯書ヲ出ス権利ノアルコトハ同ジデアル、出ス義務ノ無イコトモ亦同ジデアル、第二ノ御問ハ外ノ意味デアリマシテ、私ノ了解ガ誤ツテ居ルナラバ、更ニ補足シテ御答ヘ致シマス

○志水小一郎君 本員ノ御尋ハ答辯書ヲ出サシムル、答辯書ヲ出スト云フ規定ハ、被告ニシテ同時ニ貴族院タル議員ニ付テ規定ガアルト、斯ウ讀ム人ガ無イトモ限ルマイト思フ、若シ被告タルモノガ……所謂被告人トハ、被告ニシテ且ツ貴族院議員タルノ謂デアル、自分ハ嘗テ被告トナツテ、今ヤ被告ト云フ身體ト貴族院議員ト云フ身體トガ一致シテ居ナイノデアル、ソレダカラシテ答辯書ヲ出サヌ……

○志水小一郎君 サウ云フノハ……

○議長(公爵德川家達君) 志水君ニ御注意イタシマスガ……

○思ヒマス

○志水小一郎君 サウ云フノハ……

○議長(公爵德川家達君) 討論ニナラヌヤウニ御注意ヲ願ヒタイト

○志水小一郎君 サウ云フノハ……

○議長(公爵德川家達君) 志水君ニ御注意イタシマスガ……

○松本烝治君 左様ナコトナラ今御答ヘ致シマシタ通り、七條通リト云フコトニ御承知ヲ願ヒマス

○男爵藤村義朗君 私ハ簡單ニ資格審査委員長ニ質疑ヲ致シマス、極メテ簡單デスカラ、此席デ願ヒタウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 資格審査委員長ニ御聞エニナルヤウニ御注意ヲ願ヒマス

○男爵藤村義朗君 今朝御報告ガゴザイマシタ通り、實際ノ事實ト致シマシテハ、高柳淳之助君ノ貴族院議員辭任ハ御聽許ニ相成リマシタノデ、其結果ト致シマシテ、議長ヨリ補闕選舉ノ奏請ガ勿論アルコトト私ハ思フノデアリマス、然ルニ假ニ此爭訟ハ繼續スベキモノデアルト本院ニ於テ決定セラレマシテ、而シテ資格審査委員會ニ於テ繼續審議ノ結果、高柳氏ノ當選ハ無效ナリト判決セラレマシテ、ソレガ本院ニ於テ認メラレマシタ場合ニ於キマシテハ、是ガ當然ノ結果トシマシテ、次點者ガ當選スルコトニナルデアラウト私ハ思フ、誠ニ斯ノ如キ困ヅタコトガ起リマシタ時ニ、ドウ云フ風ニ是ハ取扱フベキモノデアルカト云フコトヲ、資格審査委員會ニ於テ審議サレタノデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、此一事ヲ伺ツテ置キタイ

○伯爵寺島誠一郎君 資格審査委員會ニ於キマシテハ、唯今ノ所デハ此御院議デ此問題ハ消滅スベキモノナリヤ否ヤヲ御決メニナリマスノヲ待ツテ居リマス、ソレデ色ミト生ズル所ノ結果ニ付テノ考ハ、唯今ノ所デハマダ決メテ居リマセヌ、留保シテ居ルヤウナ次第デアリマス、而モ御院議ノ結果ヲ得マシテカラ、其上ニ進行ヲ致ス積リデアリマス、チヨフト申上ゲテ置キマス

○男爵阪谷芳郎君 本員ハ、種々考究ヲ要スル點モゴザイマスノデ、今日直チニ討論ニ移サレテハ甚ダ私モ困リマス、他日ノ……今日ハ此程度ニ止メテ、他日討論ニ移スト云フコトノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵八條隆正君 阪谷男爵ノ討論延期ノ動議ニ賛成イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 阪谷男爵ノ發議ニハ八條子爵ノ賛成ガゴザイマシタカラ、採決イタシマス、阪谷男爵ノ發議ニ對シテ御異存ゴザイマセヌカタスコトニ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 請暇ノ件ニ付キ御誼リヲ致シマス、宇田友四郎君已ムヲ得ザル事故ニ依リ十三日間ノ請暇ノ申出ガゴザイマシタ、之ヲ許可イタスコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス、日程第一獸醫師法案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、曾我子爵ノ登壇ヲ求メマス

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十五年三月六日

右特別委員長

子爵曾我祐邦

貴族院議長公爵徳川家達殿

(特別委員ノ修正ニ係ル部分ノミナ
正文、其ノ他ハ之ヲ略ス小字ハ修
ハ同削除ノ符號ナリ)

第四條 獣醫師ハ自ラ診察セシテ診斷書・處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ検案セシテ検案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中斃死シタル場合ニ交付スル斃死診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

獸醫免許規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前獸醫免狀ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ獸醫師ノ免許ヲ受ケ獸醫師名簿ニ登録ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ未成年者タルノ故ヲ以テ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得ス

本法施行前交付シタル獸醫假免狀ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ假免狀ノ有效期間ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

本法ノ規定ハ獸醫假免狀ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施

行後八年内ニ從前ノ規定ニ依ル獸醫免狀ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第一條
第二項ノ規定ニ拘ラス獸醫師ノ免許ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ未
成年者タルコトヲ妨ヶス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ
タル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル
者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

〔子爵曾我祐邦君演壇ニ登ル〕

○子爵曾我祐邦君 唯今、上程セラレマシタ所ノ獸醫師法案特別委員會ノ經

過及結果ヲ御報告申上グマス、本案ニ付キマシテ三回ニ瓦ツテ委員會ヲ開キマ
シタ、サウシテ政府ノ答辯ヲ求ベマシタ、立法ノ趣旨ト云フモノハ、現今行
ハレテ居リマスル所ノ獸醫免許規則ト云フモノハ、明治二十三年ニ制定セラ
レマシタモノデゴザイマシテ、今日マデ三十有六年間ト云フモノハ、何等ノ
改正ヲ加ヘタコトモ無イノデゴザイマス、然ルニ一方ニ於キマシテハ、我國
ノ畜産業ノ狀況ヲ見マスルト、家畜ハ年ト共ニ殖エマシテ、而シテ其經濟的
價値ト云フモノハ益々增加シテ居ル狀態デゴザイマス、又其時代ニ於キマシ
テ、僅ニ一千六百三十八人ノ獸醫ト云フモノハ、現今ハ一万有餘ニ達シテ居ル
次第アリマス、現行法ノ獸醫師免許資格ト云フモノハ、農業學校ノ規定ニ
依ル所ノ獸醫學校卒業程度ノモノデゴザイマス、ソレデ現在ノ我ガ畜產ノ進
歩ニ鑑ミテ、其免許資格ヲ專門學校程度ニ引上ゲルト云フ此法案ノ趣旨デゴ
ザイマス、又一方カラ、獸醫師ノ團體ヲ組織シテ其團體ノ活動ニ俟ツ所アラ
ムト期スル所ノ法案デゴザイマス、要スルニ、時勢ノ進歩ニ伴フ根本的ノ改
正デゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ、政府ト質問應答ヲ重ネマシタ、其
質問ノ二三ヲ申上ゲマスレバ、獸醫ト云フ字ノ定義ハ如何、獸醫ト云フ獸ノ
字ノ定義ハ如何、或ハ獸畜、或ハ家畜、或ハ家禽ト云フヤウナ字ガ用ヰラレ
テアルガ、此定義ヲ明カニスル必要ガ大ニアルト思フ、如何トナレバ、此法
案ト云フモノハ法律ノ制裁ヲ加ヘルコトニナッテ居ルカラ、獸ノ字ノ定義如何
ニ依ツテハ非常ニムヅカシイ問題ガ起リハセヌカ、ト云フヤウナ御質問デゴザ
イマシタ、政府ノ説明スル所ニ依リマスレバ、此字ノ定義ニ付キマシテハ、
政府自身モ非常ニ適當ナル字ヲ探サレマシタガ、遂ニ其一言シテ盡ス所ノ解釋
單ニシテ明瞭ナル所ノモノヲ見出スコトガ出來ナイ、而シテ今日政府ノ解釋

シテ居ル所ノ獸醫ト云フ字ノ定義ト云フモノハ、普通ノ狀態ニ於テ、人間ガ飼養シ得ル所ノ獸畜或ハ家禽ヲ込メテ、サウシテ人間ノ馴飼シ、馴ラシ得ル所ノモノ、普通蕃殖性ヲ有ツテ居ル所ノモノ、其肉ハ以テ食料ニ供スルコトヲ得、其中カラ勞働ニ使用スルコトヲ得ルモノ、又其毛、皮ノ如キハ工業原料ニナリ得ルモノ、其外ニ愛玩用ノ獸、即チ競馬馬トカ、犬トカ猫トカ云フ種類ノモノヲ含シダモノト解釋シテ居ル、今日ニ於テハ其範圍ヲ確定的ニ定メルト云フコトハ非常ニムヅカシイカラ、ドウカ常識ノ判断ニ俟ツテ貰ヒタイト云フヤウナ御説明デゴザイマシタ、又御質問ノ一ツニハ、將來ノ獸醫ナルモノヲ全部専門學校以上ノ卒業生ニ引上ゲルト云フヤウナコトハ、果シテ斯クノ如キ必要ガ實際ノ現在ノ日本ノ狀態ニ於テ必要アリヤ否ヤ、其答辯ハ、現在ノ獸醫ト云フモノハ、殘念ナガラ誠ニ不十分ナモノデアツテ、其技倆手腕ハ未ダ以テ十分デナイ、而シテ現在家畜ノ發展ノ狀態ニ伴ウテ居ラヌコトヲ切ニ當局ハ認メルカラ、成ルベク將來ニ於テ獸醫ノ向上ヲ圖リタイト云フ御説明デゴザイマシタ、討論ニ入りマシテ、五箇所ニ亘ツテノ修正案が出マシテ、第一ノ修正案ハ、第四條ノ「獸醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ」ト云フ「診斷書」ト「處方箋」ノ間ノ⋮⋮診斷書ノ下ノ點カラ「處方箋」ト云フ三字ヲ削除シ、更ニ其後ニアリマス「若ハ治療ヲ爲シ」ト云フ七ツノ字ヲ削ルコトデゴザイマス、其修正案ノ理由ト致シマシテハ、此第四條ニ依リマスルト、獸畜ハ總テ獸醫ノ診斷ヲ得ルニアラザレバ賣藥ヲ用井ルコトガ出來ナイト云フヤウナコトニナツテ居リマス、然ルニ一方ニ於キマシテハ、過日上程セラレマシタ賣藥ノ印紙稅廢止ニ伴ヒマシテ、人間ニハ容易ク賣藥ヲ用ウルコトガ出來ル傾向ヲ持ツテ居ル、而シテ獸ハ賣藥ヲ以テ病氣ヲ治スコトガ出來ナイト云フコトハ如何ニモ條理ニ合ハナイ、ソレデ此修正案ハ、斯カル弊害ヲ除クベク出サレタモノデアリマシテ、此場合ニハ診斷ヲセズシテ處方箋ヲ出スコトヲ得ルト云フ意味ニ於ケル修正デゴザイマシテ、此修正案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレマシテ、政府モ之ニ同意ヲ表セラレマシタ、其次ノ修正案ハ第五條デゴザイマス、第五條ノ「開業ノ獸醫師ハ診察又ハ治療」云々トアル終リニ、「正當ノ事由ナクシテ」ト云フコトガゴザイマス、ソレデ此理由ト致シマシテハ、正當ノ事由ナクシテト云フコトハ、或ハ現在ノ日本ノ狀態ニ於テハ、罰則ノ伴ウテ居ルト云フコトニ連レマシテ、獸醫ノ名稱ト云フモノヲ明カニシテ置カナイト、田舎ナドニ於テハ獸醫ガ非常

ナ迷惑ヲ受ケハシナイカ、ソレデ寧ロ第五條ノ一部ニ獸ノ名稱・例ヘバ牛馬羊豚ト云フヤウナ風ニ其獸醫ノ司ル所ノ主モナル家畜ノ名前ヲ入レテハ如何ト云フ修正案デゴザイマス、併ナガラ此修正案ノ採決ニ當リマシテハ、少數ヲ以テ否決セラレマシタ、其次ノ修正案ハ、第十二條ノ第三號ノ中ノ「第四條又ハ」ト云フモノヲ削ツテ、「第四條」ト云フモノヲ其次ノ第十三條ノ中ニ加ヘテハ如何ト云フ案デゴザイマス、其理由ハ、第四條ナルモノハ自ラ診察セズシテ診斷書ヲ交付シ、又ハ検案セズシテ検案書又ハ死產書ヲ交付スルコトヲ得ズト云フヤウナコトデアリマスガ、其罰則ハ如何ニモ重イ、三百圓以下ト書イテアル、此位ノコトデ斯カル大キナ罰則ヲ付スルト云フノハ、ドウ云フモノデアラウ、寧ロ第十三條ノ中ノ原案ニアル所ノ、百圓以下ト云フヤウナ輕イ方ノ意味ニ持ツテ行シモ宜イノデハナイカト云フ修正案デゴザイマス、併ナガラ是モ採決ニ當リマシテ少數否決ニナリマシタ、其次ノ修正案ハ、第十三條ニアリマス所ノ罰則ノ百圓ト云フ字デゴザイマス、其百圓ヲ⋮⋮現在行ハレテ居ル所ノ獸醫師免許規則ノ罰則ハ、現ニ一圓カラ一圓九十五錢ト云フ少額ノモノデゴザイマス、而シテ此少額ノ罰則デサヘモ、政府ノ説明ニ依リマスルト、獸醫其者ニ相當ノ制裁ヲ與ヘルコトガ出來ル、而シテ其反則者モ其爲ニ非常ニ少イモノデゴザイマスカラシテ、左様ナ結果ト致シマシテ、突然斯カル罰則ヲ百圓以下ニ持上ゲルト云フ必要ガ無イデアラウト云フ結果カラ、百圓ヲ現今行ハレテ居ル所ノ高率ノ罰金ノ一番少額ノモノニ引下グヤウト云フコトガ一ツ、百圓ヲ五十圓ニ引下グヤウト云フニツノ案ガ出マシタ、併シ兩方トモ採決ニ當リマシテ少數デ否決ナレマシタ、其終リノ修正案ハ、附則ノ第八項デゴザイマス「本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ獸醫免狀ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施行後八年内ニ」此八年ト申シマス、「八」ノ字ヲ「十二」ニ變ヘル、即チ八年ヲ十二年ト云フコトニ變ヘルコトデゴザイマス、其理由ト致シマシテ⋮⋮實際、農家デハ極ク高等ノ教育ヲ受ケタ獸醫ガ遠イ所ニ一人居キニモ、チヨツト申上グタカモ知レマセヌガ、質問ノ際ノコトヲ申上グルニ當リマシテ⋮⋮實際、農家デハ極ク高等ノ教育ヲ受ケタ獸醫ガ遠イ所ニ一人居ルヨリモ、實際問題トシテハ一通リ獸醫ヲ心得テ居ル人ガ其近クニ居ル方ガ便利デハナイカ、現今ニ於テハ三四箇村ニ一人ノ獸醫デアルガ、更ニ高等教育ヲ受ケ其數ガ減ルニ於テハ、農家ハ益、不便ニナル、此不便ニナル結果ハ、更ニ其上ニ高イ金ヲ拂ハナケレバナラヌヤウナ狀態ニ接スルノデアルカラ、寧ロ

病氣ニナツテモ、治スニ自然ニ委シ、或ハ賣藥デ以テ治スト云フヤウナコトニテ、
ハ、或ハ牛豚等ノ傳染病ヲ擴ゲルト云フヤウナコトニナル、寧ロ傳染ヲ防グ
時機ヲ失スルコトニナルカラ、實際問題トシテハ、却テ手近ノ所ニ獸醫ガ澤
山居ル方ガ必要デハナイカ、其理由ガ一ツ、其他、更ニ政府ノ説明サレマシ
タ如キ所ノ高等ナル獸醫ヲ要求スルコトガ果シテ本當デアルナラバ、今日ハ
獸醫ト云フモノハ四方カラ引張リ風ニサレテ、非常ニ得意ノ時代デナケレバ
ナラヌ、然ルニ其實際獸醫ノ生活ノ狀態ヲ見マスルト、ナカニサウ云フ風
ニナツテ居ラナイト云フコトデゴザイマス、而シテ其實際ヨリ見テ、必シモ獸
醫ヲ：：社會ハ高等ナル所ノ獸醫ヲ要求シテ居ラナイ證據ハ、獸醫ガ少シモ
思ハシキ成功ヲ多クハ齎ラシテ居ラヌト云フコトガ、其反面ノ理由デゴザイ
マス、又一ツハ其理由ト致シマシテ、帝國大學ヲ初メ方々ノ専門學校ニ這入
ル所ノ入學ノ志願者ト云フモノガ、其十倍若クハ二十倍ニ達スル狀態デゴザ
イマス、然ルニ獸醫科ニ限りマシテハ、其入學ノ志願者ト云フモノハ常ニ甚シ
キ減少ヲ示シテ居リマシテ、現今アリマス所ノ高等學校ニ入學ヲ希望スル所
ノ獸醫ノ生徒ノ數ト云フモノハ、其數ノ四分ノ一二モ滿タナインデアリマス、
更ニ現今アリマス所ノ獸醫學校トシテ、十五箇ノ縣立學校ノ設備ノ餘裕アル
ニ拘ハラズ、平均十五人ヲ出スニ過ギズ、而シテ私立ノ學校ニ於テモ數十人
ヲ出スニ過ギナイヤウナ狀態デアリマシテ、社會ガ斯カル獸醫ノ高等教育ヲ
要求シテ居ルト云フコトハ、統計其他ニ依リマシテ、其半面ニ然ラザルコト
ヲ證明シテ居ルヤノ感ガアルノデアリマス、ソレデ此八年ヲ十二年ニ直シマ
シタト云フ所ノモノハ、八年ノ間ハ現在ノ免許法ヲ存在セシムルト云フ案デ
アリマスガ、此八年ト云フモノハ、實際生徒ニ取リマスルト云フト、五年六
年ノ案ニナリマス、ナゼカト申シマスルト學校ノ三年ト四年ガ現行ノ制度デ
ゴザイマス、ソレデ唯今申上グマシタヤウナ理由ニ依リマシテ、高等學校ニ
假ニ設備ヲ施ストシテモ、將來五年シカナイ、此五年間ニ政府ガ言フガ如ク
十分ナ設備ヲ施シ得ルヤ否ヤサヘモ疑ハシイカモ知レナイ、其上ニ此學校ニ
這入ル志願者モ現在ノヤウナ有様デアルカラ、現在先キニ農村ノコトニ付テ
ニモウ一學期加ヘタ十二年ニ延バシタイ、是ガ提出サレタ所ノ理由デゴザイ
マス、此案ニ付キマシテハ、反對論者モ現ハレマシタ、而シテ採決ニ當リマ

シテ、多數ヲ以テ此案ハ可決セラレマシタ、而シテ政府ハ此案ニ付キマシテ
ハ、説明ニ當リマシテ非常ニ困ルト云フ所ノ御言明ガゴザイマシタ、併シ採
決ニ際シマシテノ意思ノ御發表ハゴザイマセヌデゴザイマシタ、其他ハ原案
通リ可決サレマシタ、以上御報告申上ゲマス

「異議ナシト」「呼フ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認ヌマス
○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開

○子爵櫛笥隆督君 賛成
○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

卷之三

ノ獸醫ノ生徒ノ數ト云フモノハ、其數ノ四分ノ一二モ滿タナインデアリマス、更ニ現今アリマス所ノ獸醫學校トシテ、十五箇ノ縣立學校ノ設備ノ餘裕アルニ拘ハラズ、平均十五人ヲ出スニ過ギズ、而シテ私立ノ學校ニ於テモ數十人ヲ出スニ過ギナイヤウナ狀態デアリマシテ、社會ガスカル獸醫ノ高等教育ヲ要求シ一層ニ高ム。

正セラレマシタ第四條竝ニ附則ノ第八項、之ヲ問題ニ供シマス、委員會ノ修正ニ御異存ゴザイマセヌカ

公爵徳川家達君

○議長（公爵徳川家達君）御異議ナイト認メマス
○議長（公爵徳川家達君）御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ殘リノ全部ヲ問題ニ供シマス
全部原案ニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

假ニ設備ヲ施ストシテモ、將來五年シカナイ、此五年間ニ政府ガ言フガ如ク十分ナ設備ヲ施シ得ルヤ否ヤサヘモ疑ハシイカモ知レナイ、其上ニ此學校ニ這入ル志願者モ現在ノヤウナ有様デアルカラ、現在先キニ農村ノコトニ付テ申上ダマツアワツキ見王、斐村、新、加、武、武、久、武、武、武、武、武、武、武、

ラムコトヲ欲スルヤウナ観察モ出来ルノデアルカラ、其八年ト云フモノヲ假ニモウ一學期加ヘタ十二年ニ延バシタイ、是ガ提出サレタ所ノ理由デゴザイマス、此案ニ付キマシテハ、反對論者モ現ハレマシタ、而シテ採決ニ當リマ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

二 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立

三 民事訴訟法第六十四條ノ參加ノ申出

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通り、御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

六 費用額確定ノ申立

假執行ニ關スル申立

○議長(公爵徳川家達君) 日程第二ヨリ第十一マデ同一委員ニ付託セラレマ

シタカラ、一括シテ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス

民事訴訟費用法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

民事訴訟用印紙法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

非訟事件手續法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

第六條ノ二中「左ニ掲クル申立」ヲ「左ニ掲クル申立、申出」ニ改メ同條第一
號乃至第十三號ヲ左ノ如ク改ム

一期日指定ノ申立

(特別委員ノ修正ニ係ル條ノミナ印
刷シ其ノ他ハ之ヲ略ス小字ハ修正
ハ同削除ノ符號ナリ)

貴族院議長公爵徳川家達殿

人事訴訟手續法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

競賣法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

民法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

破産法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

明治三十二年法律第五十號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

刑事訴訟法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十五年三月五日

右特別委員長

子爵伊東祐弘

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔子爵伊東祐弘君演壇ニ登ル〕

○子爵伊東祐弘君 議題トナツテ居リマスル民事訴訟費用法中改正法律案、民事訴訟用印紙法中改正法律案、商事非訟事件印紙法中改正法律案、非訟事件手續法中改正法律案、人事訴訟手續法中改正法律案、競賣法中改正法律案、民法中改正法律案、破産法中改正法律案、明治三十二年法律第五十號中改正法律案、刑事訴訟法中改正法律案、以上ノ諸案ニ付キマシテ、便宜一括シテ特別委員會ノ御報告ヲ申上ゲマス、是等ノ諸案ハ大體民事訴訟法ノ改正ニ伴フモノデアリマシテ、又此改正ニ關聯シテ二三不備ノ點ヲ補^タモノガ有ルノデアリマス、例ヘバ民事訴訟費用法第一條ノ規定ハ、民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナル限度ノ費用ト云フコトヲ明カニシテ、當事者ガ負擔スヘキ費用額ヲ決定スルニ當リマシテ、權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナラザル費用ハ之ヲ控除スベシ、ト云フ趣旨ヲ明カニシタ點、又其第十七條ニ於テ、改正民事訴訟法ニ依リマシテ、官公署其他ノ法人ニ調査又ハ鑑定ノ嘱託ヲ爲シ得ルコトナリマシタカラ、嘱託ヲ受ケル者ニ對スル報酬ニ關スル規定ヲ新ニ設ケマシタコト、又其第十八條ニ於テ、裁判所ガ

證人、鑑定人等ニ支拂ヒタル日當、旅費其他ノ費用デ、當事者ノ豫納ニ係ラナイモノヲ、是等ノモノヲ取立テル手續ヲ定メマシタリ、或ハ又訴訟上ノ救助ノ場合、裁判所ガ一時免除シタル費用ヲ當事者カラ取立テル手續ヲ新ニ設ケマスルコトガ、其主ナルモノデアリマス、尙ホ此外破産法其他ノ法律ノ改廢一依リマシテ、當然改廢セラルベキ規定ガアリマシタノヲ、此際之ヲ整理シタモノガアルノデアリマス、即チ民事訴訟用印紙法ノ第十二條乃至第十五條ノ削除ノ如キ、及其第十六條ノ改正、又商事非訟事件印紙法第一條第二條及第六條ノ改正、非訟事件手續法第百二十六條及第百三十四條ノ改正ノヤウナモノハ、此類ニ屬スルノデアリマス、以上ガ諸法案ノ改正案ノ主ナル點デアリマス、特別委員會ニ於キマシテハ、二三ノ案ニ付キマシテ簡單ナル三四ノ質問ガアッタノミデ、討論ニ移ッタノデアリマス、討論ノ際ニ一委員ヨリ民事訴訟印紙法中改正法律案ノ第六條ノ二ノ中ノ第七號トシテ「假執行ニ關スル申立」ト云フ一號ヲ加ヘテ、以下順次號數ヲ繰下ゲルト云フ修正意見ガ提出セラレタノデアリマス、採決ノ結果ハ全會一致ヲ以チマシテ民民事訴訟用印紙法中改正法律案ハ、其修正意見ノ如ク第六條ニ修正ヲ加ヘ、修正議決トナッタノデアリマス……第六條ノニニ修正ヲ加ヘテ修正議決トナッタノデアリマス、其他ノ諸法案ハ全部皆原案ノ通り可決イタシタ次第デアリマス、此修正ハ民事訴訟法中改正法律案ノ第百九十六條ノ修正ニナリマシタ結果、假執行ノ宣言又ハ假執行ヲ免ルルコト、宣言ハ、當事者ノ申立ニ依ツテ之ヲ爲スコトヲ得ルト云フコトニナリマシタカラ、之ヲ改正シタノデアリマス、尙ホ其上ニ又民事訴訟法ノ支拂命令ノ場所ニモ、假執行ト云フ所ノ途ガアリマスカラ、マシテ御報告ヲ終リマス

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

シタモノガアルノデアリマス、即チ民事訴訟用印紙法ノ第十二條乃至第十五條ノ削除ノ如キ、及其第十六條ノ改正、又商事非訟事件印紙法第一條第二條及第六條ノ改正、非訟事件手續法第百二十六條及第百三十四條ノ改正ノヤウナモノハ、此類ニ屬スルノデアリマス、以上ガ諸法案ノ改正案ノ主ナル點デアリマス、特別委員會ニ於キマシテハ、二三ノ案ニ付キマシテ簡單ナル三四ノ質問ガアッタノミデ、討論ニ移ッタノデアリマス、討論ノ際ニ一委員ヨリ民事訴訟印紙法中改正法律案ノ第六條ノ二ノ中ノ第七號トシテ「假執行ニ關スル申立」ト云フ一號ヲ加ヘテ、以下順次號數ヲ繰下ゲルト云フ修正意見ガ提出セラレタノデアリマス、採決ノ結果ハ全會一致ヲ以チマシテ民民事訴訟用印紙法中改正法律案ハ、其修正意見ノ如ク第六條ニ修正ヲ加ヘ、修正議決トナッタノデアリマス……第六條ノニニ修正ヲ加ヘテ修正議決トナッタノデアリマス、其他ノ諸法案ハ全部皆原案ノ通り可決イタシタ次第デアリマス、此修正ハ民事訴訟法中改正法律案ノ第百九十六條ノ修正ニナリマシタ結果、假執行ノ宣言又ハ假執行ヲ免ルルコト、宣言ハ、當事者ノ申立ニ依ツテ之ヲ爲スコトヲ得ルト云フコトニナリマシタカラ、之ヲ改正シタノデアリマス、尙ホ其上ニ又民事訴訟法ノ支拂命令ノ場所ニモ、假執行ト云フ所ノ途ガアリマスカラ、マシテ御報告ヲ終リマス

○議長(公爵徳川家達君) 全部原案ニ御異存ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

シタモノガアルノデアリマス、即チ民事訴訟用印紙法ノ第十二條乃至第十五條ノ削除ノ如キ、及其第十六條ノ改正、又商事非訟事件印紙法第一條第二條及第六條ノ改正、非訟事件手續法第百二十六條及第百三十四條ノ改正ノヤウナモノハ、此類ニ屬スルノデアリマス、以上ガ諸法案ノ改正案ノ主ナル點デアリマス、特別委員會ニ於キマシテハ、二三ノ案ニ付キマシテ簡單ナル三四ノ質問ガアッタノミデ、討論ニ移ッタノデアリマス、討論ノ際ニ一委員ヨリ民事訴訟印紙法中改正法律案ノ第六條ノ二ノ中ノ第七號トシテ「假執行ニ關スル申立」ト云フ一號ヲ加ヘテ、以下順次號數ヲ繰下ゲルト云フ修正意見ガ提出セラレタノデアリマス、採決ノ結果ハ全會一致ヲ以チマシテ民民事訴訟用印紙法中改正法律案ハ、其修正意見ノ如ク第六條ニ修正ヲ加ヘ、修正議決トナッタノデアリマス……第六條ノニニ修正ヲ加ヘテ修正議決トナッタノデアリマス、其他ノ諸法案ハ全部皆原案ノ通り可決イタシタ次第デアリマス、此修正ハ民事訴訟法中改正法律案ノ第百九十六條ノ修正ニナリマシタ結果、假執行ノ宣言又ハ假執行ヲ免ルルコト、宣言ハ、當事者ノ申立ニ依ツテ之ヲ爲スコトヲ得ルト云フコトニナリマシタカラ、之ヲ改正シタノデアリマス、尙ホ其上ニ又民事訴訟法ノ支拂命令ノ場所ニモ、假執行ト云フ所ノ途ガアリマスカラ、マシテ御報告ヲ終リマス

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵

○議長(公爵徳川家達君) 御取消ニハ及ビマセヌ、日程第三ハ後トデ採決イタサウト考ヘテ居リマス

○議長(公爵徳川家達君) 御取消ニハ及ビマセヌ、日程第三ハ後トデ採決イタサウト考ヘテ居リマス

○議長(公爵徳川家達君) 各案ト仰セラレテハ困リマス、第三ヲ除イテト云フ字ヲ御加ヘテ願ヒタイ

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵柳筍隆督君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通リテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第三ニ戻リマス、先以テ委員會ノ修正セラレ
マシタ『第六條ノ二中「左ニ掲クル申立」ヲ「左ニ掲クル申立、申出」ニ改メ
同條第一號乃至第十三號ヲ左ノ如ク改ム』以下之ヲ問題ニ供シマス、委員會
ノ修正ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 残リ全部ヲ問題ニ供シマス、残リ全部原案ニ御異
存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、是ニテ第二讀會ハ終リマ
シタ

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマ
ス

○子爵柳筍隆督君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通リテ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ日程ハ決定次第本院稟報ヲ以テ御通知ニ及ビ
マス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

午後零時十三分散會

大正十五年三月九日